

新型コロナウイルス恐怖とストレス反応における スピリチュアリティの部分媒介効果：超越性に着目して

村上 祐介 関西大学文学部総合人文学科*

The partial mediated effects of spirituality on the relationship between fear of COVID-19 and stress responses: Focusing on transcendence

MURAKAMI Yusuke

問題と目的

パンデミック禍の心身の不調

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）のパンデミック（World Health Organization [WHO], 2020）が多くの人々を混乱に陥れている。2022年2月には約4億の感染症例が確認され、約570万人が命を落とし（WHO, 2022）、本邦でも、同時期の累計死亡者数は2万人を超えた（厚生労働省, 2022）。また、2021年10月の調査では、おおよそ35%の成人が、自身の雇用や収入の変化にパンデミックの影響がある、と実感している（労働政策研究・研修機構, 2021）。

このような生存が脅かされる状況にあって、人々の健康状態にもネガティブな影響が及んでいる。アジア、アメリカ、ヨーロッパ圏のサンプルを対象とした研究のメタ分析では、感染拡大初期には、不安、抑うつ、不眠、PTSDの各症状の有病率はそれぞれ16.7-32.6%を示した（Liu et al., 2021）。日本の一般人サンプルや、アメリカの慢性疾患をもつ高齢者では、約4-6

割が高い孤独を感じ（Stickley, Matsubayashi, & Ueda, 2021; Polenick et al., 2021）、感染拡大下における社会的孤立は、免疫、内分泌系、認知や感情等の心身の相互作用に異常をもたらし、精神的健康の悪化を増幅させる可能性が示唆されている（Dedoncker, Vanderhasselt, Ottaviani, & Slavich, 2021）。また、国内の感染拡大初期のSNSへの投稿を分析すると、まず「不安」が、次いで「疲れ」「ストレス」「鬱」といった、身体的・心理的に不健康な状態を示唆する投稿数が急増した（四方田, 2020）。日本の成人を対象としたコホート調査では、2020年5月に比べ8月時点での希死念慮も増加していた（Sasaki, Kuroda, Tsuno, Imamura, & Kawakami, 2021）。

新型コロナウイルス恐怖とストレス反応

パンデミック禍で心身に不調を来す要因は様々に考えられるが、その一つに、COVID-19への罹患に対する不安や恐れを挙げることができる。国内の成人1200名を対象とした最初の緊急事態宣言明けの調査では、感染の拡大や、自身の感染が重篤化や死につながるのではないかと、という感染不安は抑うつ・不安と正の相関を示していた（元吉, 2021）。また、COVID-19への恐れを測定する尺度として、新型コロナウイルス恐怖尺度（the Fear of COVID-19 Scale: FCV-

* y_mura@kansai-u.ac.jp
関西大学文学部総合人文学科
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

19S) が開発され (Ahorsu et al., 2020), 各国で翻訳や尺度の信頼性・妥当性検証が進められている。メタ分析を通じて, FCV-19S は, 不安, 心理的苦痛, ストレス, 抑うつなどのストレス反応の指標と中程度あるいは比較的強い正の関連を示すことが明らかになった (Şimşir, Koç, Seki, & Griffiths, 2021)。

また, 日本人を対象としたFCV-19Sの研究も行われ始めている。中学生では, 当該尺度と抑うつ傾向は相関を示さないものの (Masuyama, Shinkawa, & Kubo, 2022), 10-60代の6750名を対象とした調査では, 妥当性検証のために測定された全搬性不安やPTSD, 心理的ストレスと, それぞれ中程度の正の相関を示していた (Midorikawa et al., 2021)。また, 外出を控えているほど, コロナ恐怖は高まり, それによって, 抑うつや不安, ストレスが高まることが明らかになっている (Sugawara, Masuyama, & Kubo, 2021)。

一連の研究が示す通り, COVID-19のような未知なる病原体に対する不安は, ストレス反応を惹起する一因となる。パンデミックの終焉に見通しが立たない状況では, 市井の人々の精神的健康の維持について理解を深めるにあたって, どのような心理的資源が, 新型コロナウイルス恐怖を緩和する要因になるのかを明らかにする必要がある。

緩衝要因としてのスピリチュアリティ

本研究では, 新型コロナウイルス恐怖と精神的健康の関係における緩衝要因の一つとして, スピリチュアリティに焦点を当てたい。スピリチュアリティとは, 「大いなる力や生きとし生けるもの, またはその両方とのつながりの感覚に満ちた意味のある人生に価値を置くこと」 (Van Cappellen, Way, Isgett, & Fredrickson, 2016) である。また, その中心的な特徴には, 「目下の時空間の感覚を離れ, いのちをより大きな, 客観的な視点からみつめる能力」 (Piedmont,

1999, p. 988) であるスピリチュアルな超越 (spiritual transcendence) を伴う。人智を超えた存在を肯定し, そうした存在との関係を希求するという点で, スピリチュアリティは宗教性と重複する心理的特性である。ただし, 宗教が超越的存在との接触を社会集団的に強調する一方で, スピリチュアリティは, 聖なる存在とのつながりを個人的に探求することに重きを置く (Piedmont, 1999)。

スピリチュアリティや宗教性は, 成人の精神的健康の保護因子として考えられており (Kang, Mason, & Tarshis, 2020), 心身の健康に対するポジティブな説明要因であることがいくつかの研究で実証されている。例えば, スピリチュアリティは, 愛や畏敬, プライド等のポジティブ感情を媒介し, 人生満足度を高める (Van Cappellen, Toth-Gauthier, Saroglou, & Fredrickson, 2016)。本邦の様々な年代を対象とした調査でも, スピリチュアリティ傾向が高いほど, 精神的健康も高かった (中村, 2012)。ただし, 前向きデザインの縦断研究のみを対象としたメタ分析では, スピリチュアリティや宗教性とメンタルヘルスの間には正の関連が存在するものの, その程度は極めて弱い (Garssen, Visser, & Pool, 2021)。また, スピリチュアリティや宗教性と, バイオマーカーの関連についてのメタ分析では, 有意な正の関連は見出されたものの, その関連は極めて小さく, これらの関係に調整変数や交絡変数が関与していることが指摘されている (Shattuck & Muehlenbein, 2020)。

また, スピリチュアリティや宗教性が精神的健康に寄与するメカニズムとして, 不確実な状況に対するコーピング方略の機能が提唱されている。例えば, (1) 苦しい人生の体験に対する理解と解釈の枠組みを与えること, (2) 現在の資源では対処できない出来事に対してコントロール感を高める手段を提供すること, (3) 平穏を得ることや超越的な存在とのつながりをも

つこと、(4) 他者や超越的な存在との親密性を形成すること、(5) 人生の変容を促進すること、などである (Pargament, Koenig, & Perez, 2000)。同様に、スピリチュアルな信念や実践が、ライフイベントの評価、及び思考プロセスの制御という二つの認知-行動的枠組みに影響を及ぼす、という主張もある (James & Wells, 2003)。すなわち、超越的存在に対する肯定的な信念を有し、またその関係性の中で自己の置かれた状況を捉え直し意味づけを行うことで、ストレスフルな状態で生じ得るネガティブな感情を調整する可能性がある。

このような機能を有するスピリチュアリティは、COVID-19のパンデミック禍でも、精神的健康と肯定的な関連をもつ要因であることが支持され始めている。例えば、イタリアのロックダウン中の調査では、信仰、人生の意味の保有、良質な人間関係から構成されるスピリチュアル・ウェルビーイングは、精神的不健康と負の関連を示していた (Coppola, Rania, Parisi, & Lagomarsino, 2021)。緊急事態宣言下におけるペルーの調査では、スピリチュアリティと宗教性の多次元尺度と、人生満足度との間に正の関連があった (Esteban Turpo-Chaparro, Mamani-Benito, Torres, & Arenaza, 2021)。一方、新型コロナウイルス恐怖との関連では、マレーシアの調査を通じて、個人、コミュニティ、環境、超越的存在の4領域から構成されるスピリチュアル・ウェルビーイングが、FCV-19Sと負の関連を示したものの、抑うつ・不安の高さとも負の関連を示し、FCV-19Sと抑うつ・不安の関係を媒介することが明らかになった (Rathakrishnan, Singh, Yahaya, Kamaluddin, & Aziz, 2022)。また、ポーランドの調査では、人生の目的の解釈に宗教的意味体系を活用する宗教性が、人生の目下の状況に対する意味生成を媒介し、主観的幸福感を高めるが、こうした媒介関係は、FCV-19Sの得点が高い青年において顕著であることがわかった (Krok et al., 2021)。

問題提起

先行研究より、パンデミックの状況でも、スピリチュアリティが精神的健康の維持に一定の役割を果たすことが示唆されるが、新型コロナウイルス恐怖とスピリチュアリティの関連については一貫しない結果も散見される (e.g., Rathakrishnan et al., 2022)。また、パンデミック以前の研究を中心としたレビューでは、死への不安が宗教的信念を高めるという証拠は極めて乏しく (Jong, 2021)、メタ分析の結果も、スピリチュアリティが心身の健康状態に及ぼす影響は極めて小さいことを明示している (Garssen et al., 2021; Shattuck & Muehlenbein, 2020)。このように、スピリチュアリティが心身の健康に肯定的な影響を及ぼす、という関係性は頑健に立証されているわけではない。

また、上記研究 (Coppola et al., 2021; Rathakrishnan et al., 2022) では、スピリチュアリティの測定に、通常の間人関係の質等も含めた多次元的な尺度を使用しており、これによって、スピリチュアリティの中核的な機能である、超越的な存在との私的な関係 (Piedmont, 1999) という側面が、精神的健康とどのような関連を示すかが不明瞭になっている。しかし、パンデミックによって対人交流が制限され、生存が危機にさらされる状況では、目下の時空間感覚に限定されず、より大きな視点から生命のあり方について捉えることのできるスピリチュアルな超越 (Piedmont, 1999) が、新型コロナウイルスのような脅威状況に対するコーピングとして特に機能しているのではないだろうか。

そこで本研究では、自然実験的に恐怖や不安を喚起される昨今の状況において、スピリチュアリティの一側面である超越性に焦点を絞り、こうした信念が精神的健康といかなる関連を示すかを検証する。ここでの超越性とは、大いなる力や森羅万象といった特定の宗教的文脈に限

定されない超越的存在との関係から、個人がいのちの有り様を捉えている程度である。より具体的には、「神のような存在」や「なにか大きな見えない力」、「死んでも自然の一部になって生き続ける」や「いのちは、姿形を変えて存在する」等、「霊性の自覚」と「命の永続性」を特徴とする（中村, 1998, 2012; 村上, 2013）。本邦においても、スピリチュアリティとストレス反応との肯定的な関連を明らかにすることができれば、パンデミック時の精神衛生に関わる知見の蓄積に寄与する可能性がある。

本研究の目的

パンデミックという先行き不透明で孤独を喚起される状況においては、新型コロナウイルス恐怖が高まるほど、人智を超えた存在に不安の対処資源を求め（Pargament et al., 2000）、生命のあり方を超越的な視点から捉えようとするスピリチュアリティが高まることが予想される。また、スピリチュアリティは、コントロール感や平穏さをもたらすことで（Pargament et al., 2000）、ストレス反応の緩和に寄与し得るものと考えられる。したがって本研究では、Figure 1 に示すような媒介モデルを想定し、新型コロナウイルス恐怖とストレス反応の関連における、スピリチュアリティの超越性の媒介効果を検証することを目的とする。なお、ストレス反応については、その主要な側面である心理的ストレス反応と身体的ストレス反応の両面（今津他, 2006）を個別に従属変数とする。

方法

調査回答者

日本の感染拡大第4波期間にあたる2021年6月10日に、インターネット調査会社（アイブリッジ株式会社Freeasy）に登録された18-69歳の全国モニターに回答を求めた。調査協力者は、登録会社からのインセンティブとしてポイントが付与された。多様なサンプルから回答を得られるよう、研究費の上限を基準に、各年代の男女100名ずつを割り当て、1200人に到達した段階で、調査は自動的に終了した。このうち、項目を読まずに回答したり、全ての尺度に同一選択肢で回答したりするといった不備がみられた者260名を除外した。最終的に940名（男性442名、女性498名; $M_{age} = 40.42, SD = 16.06$ ）を分析対象とした。

質問紙の構成

フェイスシート 性別、年齢、宗教属性、新型コロナウイルスのワクチン接種状況について回答を求めた。宗教属性については、「冠婚葬祭の際に宗教的な行為（例：法事、初詣）に関与する程度で、自分自身で特定の宗教を信仰しているとは思っていない」の選択肢に加え、「自分自身で特定の宗教を信仰している」について、「仏教」「神道」「キリスト教」「その他の宗教」の選択肢を設け、以上の全てに当てはまらない場合は「その他」の選択肢への回答を求めた。回答者の属性を Table 1 に示す。

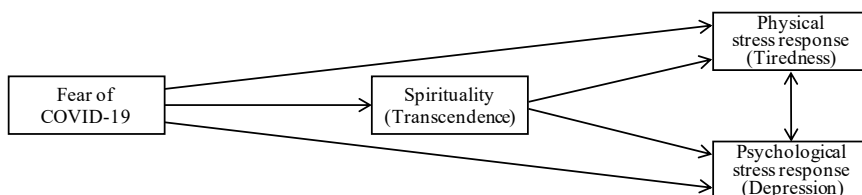


Figure 1 Conceptual framework of the study

Table 1 Demographic characteristics of participants

Characteristic	N = 940 ¹
Age	40.42 (16.06)
Gender	
Men	442 / 940 (47%)
Women	498 / 940 (53%)
Religion	
Unaffiliated	762 / 940 (81%)
Buddhism	86 / 940 (9.1%)
Christianity	13 / 940 (1.4%)
Other Religions	11 / 940 (1.2%)
Shintoism	8 / 940 (0.9%)
Other	60 / 940 (6.4%)
Vaccination	
No	863 / 940 (92%)
Yes	77 / 940 (8.2%)

Note. ¹Statistics presented: Mean (SD); n / N (%)

コロナ恐怖 Fear of COVID-19 Scale (FCV-19S) の日本語版 (Masuyama et al., 2022) を用いた。「新型コロナウイルスをととても恐いと感じる」「新型コロナウイルスのことを考えると、いやな気持ちになる」「新型コロナウイルスのことを考えると、手に冷たい汗をかく」「新型コロナウイルスによって命を失ってしまうことが怖い」等の7項目で、「1: 全くあてはまらない」 - 「5: とてもあてはまる」の5件法で回答を得た ($\alpha = .83$, 95%CI[.81, .84])。

スピリチュアリティ 中村 (1998) の研究で開発された自己超越傾向尺度に対する因子分析の結果 (村上, 2013) に基づき、超越性に関する4項目を使用した (以下、便宜的にスピリチュアリティ (Spirituality) と表記)。「自分のいのちは、姿形を変えて永遠に存在すると思う」「自分が死んでも、自然の一部になって生き続けることができると思う」「自分の心の中には人間

を超えた『神』のような存在が宿っていると思う」「自分はなにか大きな見えない力によって『生かされている』という実感がある」の4項目で、「1: あてはまらない」 - 「5: あてはまる」の5件法で回答を得た ($\alpha = .83$, 95%CI[.81, .85])。

ストレス反応 今津他 (2006) によって作成されたPublic Health Research Foundationストレスチェックリスト・ショートフォーム (PHRF-SCL(SF)) のうち、心理的ストレス反応の指標として「うつ気分・不全感」(以下、図表内ではDepressionと表記)を、身体的ストレス反応の指標として「疲労・身体反応」(以下、図表内ではTirednessと表記)を用いた。「うつ気分・不全感」には、「人を信じられないことがある」「私の努力を正当に評価してくれる人が欲しいと思う」「ちょっとしたことで腹がたったりいらいらすることがある」「将来に希望を持ってないことがある」等の6項目が含まれた ($\alpha = .80$, 95%CI[.78, .82])。「疲労・身体反応」は、「体がだるくなかなか疲れがとれない」「肩がこったり首すじがはるることがある」「なにかするとすぐ疲れる」「頭がスッキリしない」等の6項目 ($\alpha = .81$, 95%CI[.80, .83]) だった。それぞれ、ここ2週間の自身の状態として「1: ない」 - 「3: よくある」の3件法で回答を得た。

倫理的配慮

調査にあたっては、「調査目的の概略」「回答は任意であり、同意後に回答を拒否しても不利益を被らないこと」「データ管理は厳重に行われること」「プライバシーは保護されること」について、調査画面上に事前に提示し同意を得た。本研究は所属機関の倫理委員会の承諾 (承認番号: HLE-210517-A) に基づき実施した。

統計解析

分析には、R ver. 4.2.0 (R core Team, 2022), Rstudio ver. 2021.09.2+382 (RStudio Team, 2022)

および psych (Revelle, 2021), apaTables (Stanley, 2021), lavaan (Rosseel, 2012) の各パッケージ, Shiny アプリの egsummary (Nishida, n.d.) を用いた。分析対象とするデータに欠損値は含まれなかった。

相関分析および媒介分析では, 95% 信頼区間に基づく区間推定の結果を併記した。媒介分析の間接効果の推定では, ローデータをリサンプリングし間接効果の点推定値の経験分布から信頼区間を算出するブートストラップ法 (Pesigan & Cheung, 2020) を用い, 推定値の中心傾向のバイアスを補正するバイアス修正パーセンタイル法 (bias-corrected percentile method: BC 法; Mackinnon, Lockwood, & Williams, 2004) を指定した (ブートストラップ標本数5000)。また, 先行研究 (中村, 2012; Sugawara et al., 2021) を参考に性別と年齢, 宗教を交絡因子として指定した。なお, 宗教は「特定の信仰あり (仏教, 神道, キリスト教, その他の宗教)」を0, 「特定の信仰なし・その他」を1としてダミー変数化した。

結果

各変数の記述統計と相関分析

各変数の平均値と標準偏差, 変数間の相関係数を Table 2 に示す。新型コロナウイルス恐怖

は, スピリチュアリティ, うつ気分・不安全感, 疲労・身体反応とそれぞれ弱い正の相関を示した。スピリチュアリティと, うつ気分・不安全感, および疲労・身体反応との間に相関関係は確認されなかった。

媒介分析

うつ気分・不安全感および疲労・身体反応を従属変数, 新型コロナウイルス恐怖を独立変数, スピリチュアリティを媒介変数とした媒介分析を行った。なお, 媒介変数と従属変数間には相関関係が確認されなかったものの, 媒介分析では, 従属変数に対する媒介変数からの影響は, 独立変数を統制して検討される (Baron & Kenny, 1986)。そのため, 当初の仮説通り媒介分析を実施し, 媒介変数から従属変数へのパスについても, その他のパスと同様に推定することとした。

Table 3 および Figure 2 に示す通り, 新型コロナウイルス恐怖からスピリチュアリティへのパス (a) は正の値を示し, 信頼区間に0を含まなかった。また, 新型コロナウイルス恐怖の影響を統制した場合の, スピリチュアリティから疲労・身体反応へのパス (b_1), うつ気分・不安全感へのパス (b_2) はそれぞれ負の値を示し, 信頼区間に0を含まなかった。

さらに, 新型コロナウイルス恐怖と疲労・身体反応におけるスピリチュアリティの間接効果

Table 2 Mean, standard deviation, and correlations for the variables

Variable	<i>M</i>	<i>SD</i>	1	2	3
1. FCV-19S	19.84	5.22	–		
2. Spirituality	8.36	3.78	.21** [.15, .27]		
3. Tiredness	11.95	3.08	.25** [.19, .31]	-0.03 [-.09, .03]	
4. Depression	11.26	2.88	.25** [.19, .31]	-0.03 [-.09, .04]	.70** [.67, .73]

Note. *M* and *SD* are used to represent mean and standard deviation, respectively. Values in square brackets indicate the 95% confidence interval for each correlation. ** $p < .01$

(ab_1), 新型コロナウイルス恐怖とうつ気分・不
 全感におけるスピリチュアリティの間接効果
 (ab_2) はいずれも負の値を示し, 信頼区間に0を
 含まなかった。

なお, 新型コロナ恐怖から疲労・身体反応へ
 の直接効果 (c'_1), うつ気分・不
 全感への直接
 効果 (c'_2) は正の値を示し, 信頼区間に0を
 含まなかった。すなわち, スピリチュアリティ
 は, 新型コロナウイルス恐怖とストレス反応の
 関係を弱いながらも部分的に媒介していた。

考察

本研究の目的は, 新型コロナウイルス恐怖とス
 トレス反応の関係における, スピリチュアリティ
 の超越性の媒介効果を検討することであった。

本研究の知見と応用的示唆

新型コロナウイルス恐怖は, スピリチュアリ
 ティを部分的に媒介することで, ストレス反応
 と有意な関連を示したことから, 仮説はおおむ
 ね支持された。すなわち, 新型コロナウイルス
 への感染に対する恐れの高さは, 命の有
 り様を超越的存在との関係から捉えるスピリ
 チュアリティの高さと関連し, また, スピリ
 チュアリティの高さは, うつ気分や不
 全感, 疲
 労や身体反応等のストレス反応と負の関連を示
 した。このことから, スピリチュアリティの超
 越性は, 性別や年齢, 宗教の有無にかかわらず,
 新型コロナウイルス恐怖によって生じるストレ

Table 3 Mediation model of spirituality between fear of COVID-19 and stress responses

	Unstd. coef.	S.E.	p	BC 95% CI	Std. coef.
FCV19-S → Spirituality (path a)	0.143	0.025	0.000	[0.093, 0.191]	0.198
Covariance (Tiredness, Depression)	5.314	0.293	0.000	[4.786, 5.935]	0.671
FCV-19S → Spirituality → Tiredness					
Total effect (path c_1)	0.146	0.019	0.000	[0.108, 0.183]	0.248
Direct effect (path c'_1)	0.156	0.020	0.000	[0.118, 0.195]	0.265
Indirect effect (ab_1)	-0.010	0.005	0.024	[-0.020, -0.003]	-0.018
Spirituality → Tiredness (path b_1)	-0.072	0.028	0.009	[-0.126, -0.019]	-0.089
FCV-19S → Spirituality → Depression					
Total effect (path c_2)	0.146	0.018	0.000	[0.111, 0.181]	0.265
Direct effect (path c'_2)	0.155	0.018	0.000	[0.119, 0.191]	0.281
Indirect effect (ab_2)	-0.009	0.004	0.034	[-0.018, -0.002]	-0.016
Spirituality → Depression (path b_2)	-0.062	0.026	0.016	[-0.112, -0.010]	-0.082

Note. Unstd.coef. = Unstandardized coefficient. Std.coef. = Standardized coefficient. S.E. = Standard Error. BC = Bias-corrected percentile method.

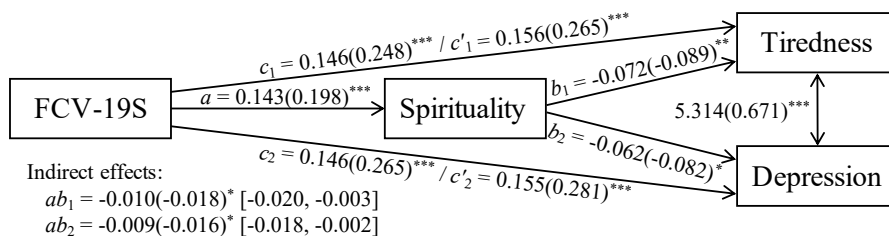


Figure 2 The unstandardized and standardized path coefficients and indirect effects in multiple mediation analysis.

Note. Values in parentheses represent the standardized coefficient. Values in square brackets represent the 95% confidence interval (bi-
 as-corrected percentile (BC) method with 5000 replications). Background confounders (age, gender, and religion) are not shown for
 simplicity. * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

ス反応を、極めて限定的ではあるものの、一部抑制する可能性が示唆された。先行研究でも、スピリチュアリティや宗教性は、メンタルヘルスやバイオマーカーと弱い関連を示し (Garssen et al., 2021; Shattuck & Muehlenbein, 2020)、コロナ禍でも精神的健康の保護要因であることが示唆されていた (Coppola et al., 2021; Esteban et al., 2021; Krok et al., 2021) が、本研究の結果も、概ねこれらの方向性を支持するものであった。従来、宗教性やスピリチュアリティは、危機的な状況におけるコーピング機能を有することが指摘されており (Pargament et al., 2000; James & Wells, 2003)、社会的つながりが抑制され、死に対する不安が高まるパンデミックにおいても、超越的な視点から自己の命のあり方を見つめる心的機能が賦活し、精神的健康の維持に寄与し得ることが示唆された。

ただし、媒介効果の信頼区間に0を含まなかったものの、間接効果は極めて弱く、部分的なものに限定されたことには注意が必要である。特に、本研究で得られたスピリチュアリティの平均値は、評定尺度の選択肢上ではやや低い (「ややあてはまらない」) 値を示していた。この結果は、信仰心の無い日本人若年層の男性の割合が、1998年から2018年にかけて倍増したというパンデミック前の調査 (小林, 2019) や、パンデミックのストレスが高いほど、スピリチュアリティや宗教性も含む中核的信念が揺さぶられる、という知見 (Matsudaira, Takano, Yamaguchi, & Taki, 2021) とも整合するものである。世俗化が進み、宗教的/スピリチュアルな信念が確固たる精神的支柱にはなり難いことが示唆される昨今の状況を踏まえれば、COVID-19への感染に対する強い不安を抱いた場合、スピリチュアリティの超越性は、心理的苦痛の緩和にやや寄与する可能性はあっても、強固な保護要因になるほどのものではない、というのが妥当な解釈であろう。

なお、パンデミック禍のような心理的な困難を抱える状況では、複数の有効なコーピング方略を個々人が柔軟に活用できることが望ましい。感染拡大に伴い妖怪アマビエへの世間的な関心が高まったように (高橋・藤井, 2022)、自他の生命が脅かされる状況では、超自然的・超越的存在を心の拠り所にしようとする傾向は一定数観測されるものと思われる。世俗化が進む現代社会にあって、スピリチュアリティに基づくコーピングがレパートリーの一つとしてより頑健に機能するためには、迷信めいたものではなく、より深い心身の安寧をもたらす精神的支柱が確立されるような取り組みが重要ではないだろうか。そうしたニーズに対して、宗教性やスピリチュアリティの問題に敏感に対応できる臨床家 (Vieten et al., 2016) や、スピリチュアリティの健全な探求に関わる学術団体から有益な情報が提供されることで、コロナ禍で苦悩を抱える多様な人々をサポートすることになると考えられる。

本研究の限界と今後の展望

第一に、本研究は横断的研究であり、一時点での変数間の関連を明らかにしているに過ぎず、因果関係を主張できない。縦断的な研究デザインを用いるなどして、スピリチュアリティが、パンデミック時の精神的健康にどのような影響を及ぼすのか、より頑健な証拠を蓄積していく必要がある。

第二に、サンプリングの問題がある。まず、本研究で採用したインターネット調査は、調査協力へのインセンティブを目的とした参加者を対象としており、無作為抽出と完全な一致を見ない可能性がある。また、比較的大きな標本サイズで調査を実施したことから、今後は、本研究で得られた知見を元に例数設計を行うなどして、再現を図ることも重要であろう。

最後に、スピリチュアリティの媒介効果は限

定的なものであったことから、ストレス反応の抑制に関連し得る他の変数を加えた検討も必要である。例えば、本研究では、スピリチュアリティの超越性の側面に限定した調査を行ったが、人生の意味や、自然・人類とのつながりといったスピリチュアリティのその他の側面、注意や情動制御の向上をもたらす瞑想（Tang, Hölzel, & Posner, 2015）等のスピリチュアルな実践、家族成員間のスピリチュアリティ（Kim, Hayward, & Gil, 2018）などが挙げられる。このような研究を通じて、スピリチュアリティがパンデミック時の精神的健康に果たす役割をより明確にしていくことが期待される。

引用文献

- Ahorsu, D. K., Lin, C. Y., Imani, V., Saffari, M., Griffiths, M. D., & Pakpour, A. H. (2020). The Fear of COVID-19 Scale: Development and initial validation. *International Journal of Mental Health and Addiction*, 1-9. Advance online publication. <https://doi.org/10.1007/s11469-020-00270-8>
- Baron, R. M., & Kenny, D. A. (1986). The moderator-mediator variable distinction in social psychological research: Conceptual, strategic, and statistical considerations. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51(6), 1173-1182. <https://doi.org/10.1037/0022-3514.51.6.1173>
- Coppola, I., Rania, N., Parisi, R., & Lagomarsino, F. (2021). Spiritual well-being and mental health during the COVID-19 pandemic in Italy. *Frontiers in Psychiatry*, 12, 626944. <https://doi.org/10.3389/fpsy.2021.626944>.
- Dedoncker, J., Vanderhasselt, M. A., Ottaviani, C., & Slavich, G. M. (2021). Mental health during the COVID-19 pandemic and beyond: The importance of the vagus nerve for biopsychosocial resilience. *Neuroscience & Biobehavioral Reviews*, 125, 1-10. <https://doi.org/10.1016/j.neubiorev.2021.02.010>
- Esteban, R. F. C., Turpo-Chaparro, J. E., Mamani-Benito, O., Torres, J. H., & Arenaza, F. S. (2021). Spirituality and religiousness as predictors of life satisfaction among Peruvian citizens during the COVID-19 pandemic. *Heliyon*, 7(5), e06939. <https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2021.e06939>
- Garssen, B., Visser, A., & Pool, G. (2021). Does spirituality or religion positively affect mental health? Meta-analysis of longitudinal studies. *The International Journal for the Psychology of Religion*, 31(1), 4-20. <https://doi.org/10.1080/10508619.2020.1729570>
- 今津 芳恵・村上 正人・小林 恵・松野 俊夫・椎原 康史・石原 慶子…児玉 昌久 (2006). Public Health Research Foundation ストレスチェックリスト・ショートフォームの作成：信頼性・妥当性の検討 *心身医学*, 46(4), 301-308. https://doi.org/10.15064/jjpm.46.4_301
- James, A., & Wells, A. (2003). Religion and mental health: Towards a cognitive-behavioural framework. *British Journal of Health Psychology*, 8(3), 359-376. <https://doi.org/10.1348/135910703322370905>
- Jong, J. (2021). Death anxiety and religion. *Current Opinion in Psychology*, 40, 40-44. <https://doi.org/10.1016/j.copsyc.2020.08.004>
- Kang, J., Mason, R. N., & Tarshis, T. P. (2020). 51.14 RELATIONSHIP BETWEEN RELIGION/SPIRITUALITY AND MENTAL HEALTH IN YOUTH DURING COVID-19. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 59(10), S255. <https://doi.org/10.1016/j.jaac.2020.08.424>
- Kim, S. S., Hayward, R. D., & Gil, M. (2018). Family interdependence, spiritual perspective, self-transcendence, and depression among Korean college students. *Journal of Religion and Health*, 57(6), 2079-2091. <https://doi.org/10.1007/s10943-017-0448-3>
- 小林 利行 (2019). 日本人の宗教的意識や行動はどう変わったか—ISSP 国際比較調査「宗教」・日本の結果から 放送研究と調査, APRIL 2019, 52-72. Retrieved from https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20190401_7.pdf (2021年8月20日)
- 厚生労働省 (2022). 新型コロナウイルス感染症について 国内の発生状況など Retrieved from https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1 (2022年2月14日)
- Krok, D., Zarzycka, B., & Telka, E. (2021). Religiosity, meaning-making and the fear of COVID-19 affecting well-being among late adolescents in Poland: A moderated mediation model. *Journal of Religion and Health*, 60(5), 3265-3281. <https://doi.org/10.1007/s10943-021-01375-7>
- Liu, X., Zhu, M., Zhang, R., Zhang, J., Zhang, C., Liu, P., ... Chen, Z. (2021). Public mental health problems during COVID-19 pandemic: A large-scale meta-analysis of the evidence. *Translational Psychiatry*, 11(1). <https://doi.org/10.1038/s41398-021-01501-9>
- MacKinnon, D. P., Lockwood, C. M., & Williams, J. (2004). Confidence limits for the indirect effect: Distribution of the product and resampling methods. *Multivariate Behavioral Research*, 39(1), 99-128. <https://doi.org/10.1207/>

- s15327906mbr3901_4
- Masuyama, A., Shinkawa, H. & Kubo, T. (2022). Validation and psychometric properties of the Japanese version of the Fear of COVID-19 Scale among adolescents. *International Journal of Mental Health Addiction*, 20, 387–397. <https://doi.org/10.1007/s11469-020-00368-z>
- Matsudaira, I., Takano, Y., Yamaguchi, R., & Taki, Y. (2021). Core belief disruption amid the COVID-19 pandemic in Japanese adults. *Humanities and Social Sciences Communications*, 8(1). <https://doi.org/10.1057/s41599-021-00976-7>
- Midorikawa, H., Aiba, M., Lebowitz, A., Taguchi, T., Shiratori, Y., Ogawa, T., ...Tachikawa, H. (2021). Confirming validity of the Fear of COVID-19 Scale in Japanese with a nationwide large-scale sample. *PLoS one*, 16(2), e0246840. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0246840>
- 元吉 忠寛 (2021). 新型コロナウイルス感染症による人々への心理的影響 社会安全学研究, 11, 97-108.
- 村上 祐介 (2013). 大学生のスピリチュアリティにおける探究心媒介モデル 関西大学心理学研究科博士論文 (未公開)
- 中村 雅彦 (1998). 自己超越と心理的幸福感に関する研究 — 自己超越傾向尺度作成の試み 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学, 45(1), 59-79.
- 中村 雅彦 (2012). スピリチュアリティへの心理学的アプローチ 櫻尾 直樹 (編) 文化と霊性 (pp.211-242) 慶應義塾大学出版会
- Nishida, N. (n.d.). egsummary. <https://norimitsu-nisida.shinyapps.io/egsummary/>
- Pargament, K. I., Koenig, H. G., & Perez, L. M. (2000). The many methods of religious coping: Development and initial validation of the RCOPE. *Journal of Clinical Psychology*, 56(4), 519–543. [https://doi.org/10.1002/\(sici\)1097-4679\(200004\)56:4<519::aid-jclp6>3.0.co;2-1](https://doi.org/10.1002/(sici)1097-4679(200004)56:4<519::aid-jclp6>3.0.co;2-1)
- Pesigan, I. J. A., & Cheung, S. F. (2020). SEM-based methods to form confidence intervals for indirect effect: Still applicable given nonnormality, under certain conditions. *Frontiers in Psychology*, 11. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2020.571928>
- Piedmont, R. L. (1999). Does spirituality represent the sixth factor of personality? Spiritual transcendence and the five-factor model. *Journal of Personality*, 67(6), 985-1013. <https://doi.org/10.1111/1467-6494.00080>
- Polenick, C. A., Perbix, E. A., Salwi, S. M., Maust, D. T., Birditt, K. S., & Brooks, J. M. (2021). Loneliness during the COVID-19 pandemic among older adults with chronic conditions. *Journal of Applied Gerontology: The Official Journal of the Southern Gerontological Society*, 40(8), 804–813. <https://doi.org/10.1177/0733464821996527>
- R Core Team. (2022). R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing. <https://www.R-project.org/>
- Rathakrishnan, B., Singh, S., Yahaya, A., Kamaluddin, M. R., & Aziz, S. (2022). The relationship among spirituality, fear, and mental health on COVID-19 among adults: An exploratory research. *Frontiers in Psychology*, 12, 815332. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2021.815332>
- Revelle, W. (2021) psych: Procedures for psychological, psychometric, and personality research (R package version 2.1.9) [Computer software]. <https://CRAN.R-project.org/package=psych> Version = 2.1.9.
- 労働政策研究・研修機構 (2021). 新型コロナウイルスによる雇用・就業への影響等に関する調査 労働政策研究・研修機構 Retrieved from <https://www.jil.go.jp/press/documents/20211222.pdf> (2022年1月29日)
- RosseeL, Y. (2012). lavaan: An R package for structural equation modeling. *Journal of Statistical Software*, 48(2), 1-36. <https://doi.org/10.18637/jss.v048.i02>
- RStudio Team (2022). RStudio: Integrated Development Environment for R. RStudio, PBC. <http://www.rstudio.com/>
- Sasaki, N., Kuroda, R., Tsuno, K., Imamura, K., & Kawakami, N. (2021). Increased suicidal ideation in the COVID-19 pandemic: An employee cohort in Japan. *BJPsych Open*, 7(6), e199. <https://doi.org/10.1192/bjo.2021.1035>
- Shattuck, E. C., & Muehlenbein, M. P. (2020). Religiosity/Spirituality and physiological markers of health. *Journal of Religion and Health*, 59(2), 1035–1054. <https://doi.org/10.1007/s10943-018-0663-6>
- Şimşir, Z., Koç, H., Seki, T., & Griffiths, M. D. (2021). The relationship between fear of COVID-19 and mental health problems: A meta-analysis. *Death Studies*, 1–9. Advance online publication. <https://doi.org/10.1080/07481187.2021.1889097>
- Stanley, D. (2021). apaTables: Create American Psychological Association (APA) style tables (R package version 2.0.8) [Computer software]. <https://CRAN.R-project.org/package=apaTables>
- Stickley, A., Matsubayashi, T., & Ueda, M. (2021). Loneliness and COVID-19 preventive behaviours among Japanese adults. *Journal of Public Health*, 43(1), 53–60. <https://doi.org/10.1093/pubmed/fdaa151>
- Sugawara, D., Masuyama, A., & Kubo, T. (2021). Socioeconomic impacts of the COVID-19 lockdown on the mental health and life satisfaction of the Japanese population. *International Journal of Mental Health and Addiction*, 1–15. Advance online publication. <https://doi.org/10.1007/s11469-021-00368-z>

- org/10.1007/s11469-020-00461-3
- 高橋 綾子・藤井 修平 (2022). 新型コロナウイルス禍のアマビエにみる妖怪の社会的機能 心理学研究, 93, 58–64. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.93.20340>
- Tang, Y. Y., Hölzel, B. K., & Posner, M. I. (2015). The neuroscience of mindfulness meditation. *Nature Reviews Neuroscience*, 16(4), 213–225. <https://doi.org/10.1038/nrn3916>
- Van Cappellen, P., Toth-Gauthier, M., Saroglou, V., & Fredrickson, B. L. (2016). Religion and well-being: The mediating role of positive emotions. *Journal of Happiness Studies*, 17(2), 485–505. <https://doi.org/10.1007/s10902-014-9605-5>
- Van Cappellen, P., Way, B. M., Isgett, S. F., & Fredrickson, B. L. (2016). Effects of oxytocin administration on spirituality and emotional responses to meditation. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 11(10), 1579–1587. <https://doi.org/10.1093/scan/nsw078>
- Vieten, C., Scammell, S., Pierce, A., Pilato, R., Ammondson, I., Pargament, K. I., & Lukoff, D. (2016). Competencies for psychologists in the domains of religion and spirituality. *Spirituality in Clinical Practice*, 3(2), 92–114. <https://doi.org/10.1037/scp0000078>
- World Health Organization (2020). WHO Director-General's opening remarks at the media briefing on COVID-19 - 11 March 2020. Retrieved from <https://www.who.int/director-general/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19---11-march-2020> (2021年6月5日)
- World Health Organization (2022). WHO Coronavirus (COVID-19) Dashboard. Retrieved from <https://covid19.who.int/> (2022年2月13日)
- 四方田 健二 (2020). 新型コロナウイルス感染拡大に伴う不安やストレスの実態：Twitter投稿内容の計量テキスト分析から 体育学研究, 65, 757–774. <https://doi.org/10.5432/jjpehss.20048>

抄録

本研究の目的は、新型コロナウイルス恐怖とストレス反応の関連を、スピリチュアリティの一側面である超越性が媒介するかを検討することであった。オンライン調査を実施し、940名（平均年齢 = 40.42歳、男性442名、女性498名）を分析対象とした。媒介分析の結果、スピリチュアリティは、新型コロナウイルス恐怖とストレス反応を部分的に媒介したが、その効果は極めて限定的なものにとどまった。日本においても、スピリチュアリティの超越性が、パンデミック禍の人々のメンタルヘルスの維持に一定の役割を担う可能性が示された。本研究の限界と今後の展望が議論された。

キーワード：精神的健康、パンデミック、スピリチュアルな超越

Abstract

The purpose of this study was to examine the mediation effects of transcendence, an aspect of spirituality, on the relationship between fear of COVID-19 and stress responses in a Japanese sample. 940 participants ($M_{age} = 40.42$; 442 men, 498 women) completed the questionnaire through online survey. Mediation analysis showed that spirituality partially mediated the association between fear of COVID-19 and stress responses, while these effects were only limited. These results suggest that transcendence of spirituality might play a role in maintaining mental health of Japanese people under the pandemic. Limitations and implications for further study are discussed.

Keywords: mental health, pandemic, spiritual transcendence

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。